

4 成果と今後の課題

(1) 成果

思考のパターンの指導

- ・どの単元でも共通する思考の流れを意識しながら授業を進めることで、児童にも次第に予想を立てる力や結果から結論を導き出す力がついてきた。
- ・どの授業でも共通して使えるカードを用意したことで、児童が思考の流れを視覚的に把握しやすくなる効果があった。繰り返し指導する効果は大きいと感じている。

話す力・聞く力を育てる

- ・いつも挙手をして発言をしたがる児童だけでなく、手を挙げない児童にも意図的に発言の機会を与えるようにした。自分の考えを表現し、みんなに理解してもらうことの楽しさを味わい、自信をもって発言しようとする児童が増えてきた。
- ・「話す力」「聞く力」について児童が自分なりのめあてをもつようになった。

自分の学びをつくる

- ・授業のふりかえりを書くことで児童は自分の学びについての自己評価を行うことになり、教師が児童の思考過程を見取る手立てとしても有効であった。
- ・与えられた宿題のドリルをただ漫然とやるだけでなく、自分なりのめあてをもって取り組むことで学習に目的意識が生まれ、児童が主体的になってきた。

個に応じた指導

- ・特別支援教育の手法を取り入れることで通常学級の児童にも適切に対応することができる場合が多くあり、大変参考になった。特に作業や学習を進める手順を視覚的にとらえられるよう黒板に示すことで、落ち着いて学習に取り組めるようになった児童が多かった。

(2) 今後の課題

思考のパターンの指導

- ・今年度は理科の授業を中心に取り組んできたが、他の教科や総合的な学習の時間等でも同様に思考のパターンを取り出し、繰り返し指導することで児童の思考力が広がっていくのではないか。
- ・「比べ分類する力」「関係づける力」など、いくつかのキーワードを指導者が意識しながら指導する必要があると感じている。

話す力・聞く力

- ・どの学年段階の児童にどのような力をどの程度求めるのか、今どの児童にはどの力がどの程度身についているのか、といったことを更に具体的に調べ、発達段階に応じて指導していく必要がある。
- ・国語の時間に確実な力をつけていくことなど、中学年としてだけでなく、全校で「この学年ではここまで身に付ける」という共通認識のもとに学年段階に応じた指導をする必要がある。

自分の学びをつくる

- ・自分の学習に対する思いを書く力がどんどん育つ児童がいる一方、「おもしろかった」「がんばりたい」といった記述のみに終始する児童もまだまだ多い。具体的にどのようなふりかえりを求めるのか、書く視点を具体的に例示したり、よく書けている児童の記述を紹介したりして、内容を深めていくための指導を継続したい。